

ユネスコ加盟75周年記念

ユネスコ 日本ユース・フォーラム 2025/26

会場 日本教育会館

2026年2月8日(日)



プログラム

午前の部		
10:00～10:30		受付
10:30～10:50	20分	オープニング 開会挨拶：文部科学省国際統括官付 趣旨説明：小林 真緒子／次世代ユネスコ国内委員会委員長
10:50～11:10	20分	セカイを知る Part 1 ユネスコ・ユースフォーラム参加報告：橋本 武龍／次世代ユネスコ国内委員会委員
11:10～12:00	50分	ポスターセッション ユース団体・若手社会人を含む各種団体のポスター展示
12:00～13:00	60分	休憩
午後の部		
13:00～13:45	45分	セカイを知る Part 2 基調講演：「僕はミドリムシで世界を救うことに決めました。」 出雲 充／株式会社ユーグレナ代表取締役社長
13:50～14:50	60分	セカイを知る Part 3 ユネスコ加盟 75 周年記念パネルディスカッション ＜パネリスト＞ 出雲 充／株式会社ユーグレナ代表取締役社長 長内 あや愛／株式会社食の会代表取締役 苗代 昇妥／次世代ユネスコ国内委員会委員 ＜モデレーター＞ 吉田 夏希／次世代ユネスコ国内委員会委員
	25分	コーヒーブレイク
15:15～16:05	50分	セカイを知る Part 4 詳細は右ページ ▶▶ 次世代ユネスコ国内委員会ワーキンググループ活動報告 ■ 教育分科会(全体会場) テーマ：「ユネスコの教育分野における学びのかたち ～若者参画から見えてきた視点～」 ■ 科学分科会(806 号室) テーマ：「『守る』から『共に生きる』へ ～ユネスコエコパークが示す、これからの暮らし～」 ■ 文化分科会(805 号室) テーマ：「MONDIACULT(文化政策と持続可能な開発に関する世界会議)2025 最新報告～『わたし』の日常と『セカイ』の文化政策が『つながる』瞬間～」
16:10～16:50	40分	クロージング Next Action 宣言 閉会挨拶：大原 瑞萌／次世代ユネスコ国内委員会委員
16:50～17:30	40分	交流会(任意)

※プログラム中は、主催者および公式カメラマンを除き、会場内および YouTube 配信画面の撮影・録音・録画・スクリーンショット等のご遠慮ください。

出演者プロフィール



出雲 充 (いずも みつる) / 株式会社ユーグレナ代表取締役社長

駒場東邦中・高等学校、東京大学農学部卒業後、2002年東京三菱銀行入行。2005年株式会社ユーグレナを創業。世界初の微細藻類ミドリムシ(学名:ユーグレナ)食用屋外大量培養に成功。第一回日本ベンチャー大賞「内閣総理大臣賞」、第五回ジャパンSDGsアワード「内閣総理大臣賞」受賞。著書に『僕はミドリムシで世界を救うことに決めた。』(小学館新書)、『サステナブルビジネス』(PHP研究所)。経団連スタートアップ委員長、経済同友会スタートアップ推進総合委員長、内閣官房知的財産戦略本部員、文部科学省アントレプレナーシップ推進大使、東京大学農学部運営諮問委員、東京大学創立150周年記念事業150人委員、開志専門職大学客員教授、世界経済フォーラム(ダボス会議)ヤンググローバルリーダー、ビル&メリнда・ゲイツ財団SDGsゴールキーパー。



長内 あや愛 (おさない あやめ) / 株式会社食の会代表取締役

食文化研究者。2011年から料理の作り手として修行をはじめ。調理師・製菓衛生師。高3時に「世界経済フォーラムダボス会議」のU30起業家コンテスト「Re-Generate Japan」を最優秀賞。慶應SFC総合政策学部在学中研究を行いながら、復刻再現料理の食事制作・提供の場として2019年8月食の聖地日本橋にて「食の會日本橋」オープン。「和食と洋食の食文化の衝突」をテーマとし、江戸後期から明治期の食を文献から再現に取り組む。持続可能な食文化創造を目指し山形県鶴岡市で発酵タンパク質「kin-pun」共同経営者。文化庁食文化「知の活用振興事例」顕彰委員/山形大学農学部客員准教授/株式会社食の会代表/文科省アントレプレナーシップ推進大使など。

分科会詳細 セカイを知る Part4 次世代ユネスコ国内委員会ワーキンググループ活動報告

教育分科会 テーマ:「ユネスコの教育分野における学びのかたち～若者参画から見えてきた視点～」

<登壇者・発表タイトル>

- 小林 真緒子 「ユネスコの教育分野における世界のユース活動～SDG 4 Youth & Student Network での活動を通して～」
川上 寛人 「岡山 RCE 世界会合を経て再考する、ESD for 2030 時代におけるユースへの期待」
川端 優木 「“地域の魅力”を活かした学びの場づくりー『UNESCO International Forum on the Futures of Education 2024』への参加、地域での活動を通してー」

会場/全体会場 形式/ハイブリッド開催(講義形式、Q&A あり)

科学分科会 テーマ:「『守る』から『共に生きる』へ～ユネスコエコパークが示す、これからの暮らし～」

<登壇者・発表タイトル>

- 本多 うらら 「ユネスコの科学分野は何をしているのか?ー科学WGとジオパークの活動紹介」
中村 心寧 「ユネスコエコパークとは?『人と自然の共生』をめぐる世界の動き」
門田 朔 「若者とユネスコエコパークの関わり方」

会場/806号室 形式/ハイブリッド開催(講義形式、Q&A あり)

文化分科会 テーマ:「MONDIACULT(文化政策と持続可能な開発に関する世界会議)2025 最新報告 ～『わたし』の日常と『セカイ』の文化政策が『つながる』瞬間～」

<登壇者・発表タイトル>

- 長澤 パティ 明寿 「セカイをつなぐ文化のチカラ -MONDIACULT2025 参加報告-」

会場/805号室 形式/ハイブリッド開催(参加型ワークショップあり)



ポスターセッション団体紹介

団体名	展示内容
① 次世代ユネスコ国内委員会	本ユースフォーラムの企画団体である次世代ユネスコ国内委員会について、組織概要や活動内容をご紹介します！ 次世代ユネスコ国内委員会にご関心のある方、必見です！！
② 次世代ユネスコ国内委員会 科学ワーキンググループ	次世代ユネスコ国内委員会の科学ワーキンググループが今年度実施した活動紹介として、日本ジオパーク全国大会への参加および生物と人との共生を考える出前授業について報告します。今後の活動として、科学分野におけるユースの参画とネットワークの活性化を目指していますので、皆様、ぜひアイデア交換をしましょう！
③ #SASS2025「大学生による中高生のためのSDGs／サステナビリティアワード」実行委員会	#SASS2025「大学生による中高生のためのSDGs／サステナビリティアワード」(#SASS)は、中高生を対象としたSDGsに関する動画コンテストです。本フォーラムでは、コンテストの趣旨や実施内容に加え、大学生実行委員によるイベント企画や教材開発に関する取り組みについてご紹介します。
④ 鹿児島修学館中学校・高等学校	ユネスコスクール、及び国際バカロレア校として、生徒それぞれの興味関心に基づく探究学習や奉仕活動を促しています。一事例として、鹿児島の世界遺産「寺山炭窯跡」周辺での「寺山の森再生プロジェクト」に参加してきた生徒による活動事例報告を中心にポスター展示します。ぜひ、フィードバック・連携・交流のお声かけを！
⑤ GOALs ～学校協働SDGs チャレンジ～	首都圏5校・23名の中高生が協働し、「東日本大震災を教科書の出来事にしない！」を合言葉に毎月活動する「GOALs～学校協働SDGsチャレンジ」。2025年11月には「中高生による中高生のための『福島、その先の環境へ。ツアー』」を環境省 環境再生・資源循環局と共催で、25名の中高生と先生を対象に実施しました。ツアー当日の様子だけでなく、2025年度の活動の様子を発表します。
⑥ 「ユネスコ教育勧告」若者向け 対話型教材づくりプロジェクト	ユネスコ教育勧告（平和と人権、国際理解、協力、基本的自由、グローバル・シティズンシップおよび持続可能な開発のための教育に関する勧告）を若者へ普及させるため「14の主導原則」を中心に若者が主体となって『対話型教材』を作成中です。試作品、授業・ワークショップでの活用イメージ、検討体制（コア／プロジェクトメンバー）と今後の展望を提示します。QRコードを用いて資料・参加フォームへ誘導し、来場者の意見を収集して改善し、全国の協働者を広く募ります。
⑦ 青山学院大学 Le Lien (ルリアン)	私たちLe Lienは2024年度に設立した、ユネスコ活動を行う青山学院大学の学生で構成された学生団体です。本展示では、団体の紹介とこれまでの活動報告に加え、各メンバーが留学を通して得た学びや視点の変化を紹介します。また、留学中に行ったSNS発信が生んだ共感や対話の広がりを成果として共有し、これらの経験をもとに今後取り組みたい防災・減災活動の展望を発信します。

<p>⑧ 京都大学大学院総合生存学館</p>	<p>言語危機現象をテーマとした研究活動を通じて形成された問題意識のもとに、ユネスコ本部にてデジタル空間における多言語主義と言語多様性に関する実務に携わりました。その実務経験を踏まえ、国際機関の枠組みだけでは対応しきれない課題に向き合うため、生物圏保存地域における地域主導型の言語文化保全プロジェクトの構想を紹介します。</p>
<p>⑨ 日本有志ユース for ユネスコ MAB(MABdachi)</p>	<p>私たちは、生物多様性の保全と持続可能な地域発展を推進するユネスコ MAB計画に参画する若者 (MABユース) として、日本におけるMABユース組織の設立を目指して活動しています。本ポスターでは、オンラインでのウェビナー開催、中国や韓国における世界会議への登壇、山梨での現地視察など、国内外での活動を報告します。主にMABの概念を広めるためユースに向けてユースが行っている活動紹介。具体的には、ウェビナーや韓国との連携、JBRNの会合にユースとして参加したことなどを報告します。</p>
<p>⑩ Wetskill Japan</p>	<p>70以上の国と地域で2週間程度の水資源に関連する教育活動、文化活動を実施するWetskillグループの日本団体の紹介及び、当該団体の大阪・関西万博2025での在日オランダ王国大使館と連携した公式イベントプログラムの実施を報告します。</p>
<p>⑪ 岡山県ユネスコスクール 高等学校ネットワーク 学生スタッフ</p>	<p>私たちは岡山県内の大学生等で構成される学生スタッフです。県内高校のユネスコスクール等と連携し、ESD/SDGsのワークショップや事前学習会、実践交流会の運営を行っています。本展示では、学習会・交流会を高校生とともに進める中で得た気づきや学びを紹介します。</p>
<p>⑫ 日本ユネスコエコパーク ネットワーク Japanese Biosphere Reserves Network</p>	<p>日本ユネスコエコパークネットワーク (JBRN) は、国内のユネスコエコパークをつなぐ連携組織です。本展示ではエコパーク (BR) の概要を紹介するとともに、各BR、自治体がどんなことをしているのか、BR間の連携、そこへのユース参画の可能性を考える機会とします。</p>
<p>⑬ 特定非営利活動法人 日本ジオパークネットワーク</p>	<p>日本全国のジオパークや日本ジオパークネットワークの活動、特に、毎年開催している日本ジオパーク全国大会におけるユースセッション (過去4回連続開催) や昨年8月に開催したジオパーク国際ユースフォーラム in 室戸について紹介します。ジオパークが次世代とともに拓く持続可能な未来を一緒に話し合しましょう。</p>
<p>⑭ 日本ユネスコ協会連盟 PYP 実行委員会</p>	<p>Peacebuilding Youth Program (PYP) は、ユネスコ憲章の理念を土台に、「平和」を自分ごととして捉え、対話と探究を通じて行動につなげるプログラムです。学生で構成される実行委員が運営し、参加者は18~35歳のユース。オンラインセッションの活動報告に加え、SNSを活用してユース層へユネスコ活動を広げる取り組みも紹介します。</p>
<p>⑮ 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター</p>	<p>公益財団法人ユネスコ・アジア文化センターが文部科学省より委託をうけ実施している、ユネスコ未来共創プラットフォーム等について紹介し、参加者のみなさまと情報交換ができればと思います。</p>

会場フロア全体図



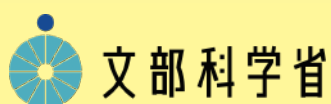
展示パネル配置図(会場後方)



Memo



主 催 文部科学省 / 日本ユネスコ国内委員会 / 公益財団法人五井平和財団
企 画 次世代ユネスコ国内委員会
後 援 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 / 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)
特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク / 公益財団法人日本自然保護協会



右のQRコードより参加者アンケートへのご回答をお願いいたします。

